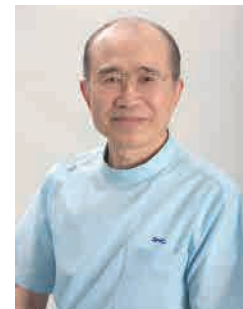


青木町政に対し、私は斯く考える

諏訪マタニティークリニック院長 根津 八 紘



2012年10月29日

今から10年前、古里・下諏訪町の衰退を憂い、町長となられた高橋文利さんは、町政改革の道半ばにして2年後の11月3日に急逝され、その後を継ぐ形で下諏訪町長となられたのが、現職の青木悟氏でした。そして4年後の町長選に当り、対抗馬が出馬しない中での無投票再選は好ましくないとの考えから、私の仲間達が当院の事務長である長幅政博氏を急遽擁立し選挙戦に突入。選挙運動期間は正味3、4日しか無い中で、奮闘実らず残念ながらの落選となり、青木氏が再任される形となりました。

その彼による町政8年間を振り返る時、この町はいったいどうなってしまったのでしょうか。思い当たる主な問題点を、私なりに列挙してみました。

1. 食祭館の件

彼の考えの一つであった、あの、町のど真ん中の土地の活用は、その後、特定の方の為に半永久的に、それも特別待遇で貸し出されることとなった。そもそも、あの土地を町が、嘗てどれだけの高値で購入されているか、町民の多くは知らないものと思う。本来、あの一等地は町民にとっての街中広場と考え、昼は老人の憩いの場とし、夕刻は若者の自己表現の場、夜は夜店を開き大人の集う場として活用すべきではなかったかと私は今でも考えている。

現在は食祭館を町が率先してバックアップしているため、既存の旅館街や飲食店街は“虫の息”の状態にある。にもかかわらず、公な形で苦言を呈することができない状態に町民は置かれていることを、青木町長は御存知であろうか。

2. 赤砂崎の土地利用の件

時代の流れの中で、あの土地が町の財政を圧迫していることは、周知の事実である。しかし、国の補助金目当ての下で、災害時の拠点基地として13億余の整備費を費やして工事が始まっていることを、どれだけ多くの町民が知っているであろう。私は以前に新聞のコラムの中でも指摘したが、災害時、特に震災の際には、砥川の土砂の諏訪湖への堆積地であるあの場所、又、あの場所に至る道路は、元々の成り立ちからして陥没や液状化現象により、使用不能になる可能性はかなり高いものと考えられる。又、立地的に町の端に位置する土地であることからして利用しづらく、その上、災害時において、町民にとっては利用不可能になる可能性を充分考えておくべきである。過日、ヘリコプターを利用して災害訓練をしたようであるが、町所有のヘリコプターでもない限り、現実問題、災害時において、優先的に下諏訪町だけが活用することは不可能と考えるべきである。赤砂崎は当面、

太陽光発電、風力発電の場所としながら、あの土地の借金返済の足しにしつつ、非常時には町役場等の電源として活用、平時には公園等の町民広場として併用して活用すべき場所とすべきではなかったか、と私は考える。

3. 災害時の医療の件

災害時の赤砂崎の活用の際にも触れたが、あの時の災害訓練において下諏訪町内の医師は全くのつんば棧敷(差別用語ですみません)。災害時の医療拠点を日赤や岡谷病院を主に考えておられるかも知れないが、日赤への道路は液状化現象で真っ先に使用不能となることは事実と考えられる。その上、前述したようにヘリコプターは町専用にするには出来ないもので、少なくとも震災時に日赤を活用することは不可能と考えるべきである。過日も、四国愛媛県にて行われた原子力発電所事故を想定した避難訓練において、天候不良のために、出動可能であったはずのヘリコプターのほとんどは、出動不能であったとのことである。お祭騒ぎと言っては失礼かも知れないが、あのような避難訓練では震災時に用を為さないであろうことを、町民は本気になって考えるべきである。一方、岡谷病院に関しても岡谷市民のために手一杯になるものと考えられる。となると、町内の医師や中でも共立病院との連携を、日頃から密にしておくべきではなからうか。その時のことも考え、私の病院では独自にその時の為の体制を、町からの援助無くして整備中である。

4. 災害時の上下水道の件

災害が起きたら、まず、上下水道は使えなくなると考えなければならない。特に下水道は諏訪湖の向こうに終末処理場があり、不安定な配管状況を考えれば、震災後長期に亘って使用不能となることは周知のこととして捉えておくべきである。にも関わらず、それに対する対策は何らとられていない(?)。今から非常時における、各家庭での簡易下水処理方法を考えるべきではなからうか。

上水道に関しては、町内5~6ヶ所に簡易浄化装置の付いた井戸を設け、日頃から利用しつつ非常時用として確保しておくべきものとする。

5. 町内の空き家、シャッターの閉まった店舗に関して

私が下諏訪の住民となった36年前から考えると、この町は廃墟に近い状態にあると言っても良い。更に人口の減少は、諏訪の他地域より顕著である。このことに関しての青木町政の能動的な動きが、私には全く感じられない。行政は、空き家を借り上げ、町費で手入れをして、

町外から若い家族を呼び込むようなことをすべきではなからうか。

店舗に関しても、行政の責任で開店希望者に斡旋し、町内を賦活化することを考えるべきである。

6. 病児保育に関して

町内にも、働く女性の為に病児保育が必要として私は町に嘗て進言をした。しかし、町は利用者が少ないとして却下したため、仕方無く当諏訪マタニティークリニック独自で病児保育施設を開設し、現在運営している。

しかし、開設の為に100数十万円、運営費として月数十万円を要している。町は開設に当たっては全く配慮もせず、時々使用する方の為にだけ月数千円を時々負担しているのみである。当院を支えて下さった町民の為にと考えると、当院としては独自に頑張っているが、資金面でやがては止めざるを得なくなるであろう。病児保育は働く女性にとって必須の施設であり、例え利用者が少なくとも、町民の安心確保には無くてはならない施設と私は考える。

0歳児保育に関しては当院のスタッフのみを対象として開設しているが、町民のニーズは高い。前項で空き家の利用においても述べたが、若者が安心して住めるような環境を整えることが、行政の務めではないかと考える。町民のニーズの先取りをして環境を整えない限り、この町の人口減少を阻止することは出来ないであろう。現状から考える時、町民に優しい町作りに欠けている青木町政と言わざるを得ない。

7. 大社通りの電線・電話線埋設、北側の拡幅に関して

私は昔の大社通りを知らないが、それなりに門前街として風情を持っていたものと思う。その風情に近付ける形で拡幅や埋設が計画されているならば私は大賛成である。しかし、南側の拡幅内容で、北側においても単に道を拡幅するだけであったり、更に現状下での大社通りのま

まで電線や電話線の埋設が行われても、何らする意味は無いものとするが如何であろう。私事であるが、南側の拡幅に関する町からの、私のお世話することになった苔泉亭に対する補助金100万余は、街中風情再生に使用して頂くべく、町に全額寄附させて頂いた。しかし、未だ何処にどのように使われたかは聞いていない。

8. 町長歳費に関して

彼が町長になる際、赤字町政に相応しくないとして減額していた高橋町長時代の歳費を元の額に戻した。その時の彼の言に、「私にも家族が居る」即ち、自らの生活費に関し歳費を充てにして町長をしているのであろうか。倒産した会社から高額な給料やボーナスをもらっているに等しい状態で、町政を行える町長のスタンスは如何なるものか。全国有数の赤字行政下諏訪町を、自ら立て直すお気持ちは、青木町長におありであろうか。

9. 町内閉塞感に関して

8年間の彼による行政により、今や誰も不満があっても提言できない閉塞感状態の中に町はある。私は、町内の産科医療に関して町民にプラスになると考える提言をしたことがあるが、前例が無いとして、にべも無く却下された。多くの町民は正に、「もの言えは唇寒し秋の風」の中にあることを、私はこの場を借りて町民に代わり代弁させて頂く。

以上、日頃から考えていたことを、まとめて述べさせて頂きました。これ以上、青木悟氏に下諏訪町を任せてはならないと私は考えていますが、下諏訪町民の皆さんはどのようにお考えでしょうか。今回の選挙によって、下諏訪町の将来にまで亘る停滞状態が決定付けられることを“仕方がない”として、見過ごしてはならないものと私は考えていますが如何でしょうか。

国民の大きな不安要因は「目的地」どこへ向かへばよいかわからない。
誰を信じればよいかわからない。
町とて同じこと。
本当にこの町の行く末を思い考えるのであれば、
一人一人が「しがらみ」などでなく自分の頭で考え、判断して欲しい。
その為にはこの国の情勢や県の立ち位置をも考える広い視野が必要であることを理解して欲しい。
国にも、町にも残された時間はない。
また何もせぬまま時間だけが過ぎて行く。
そんな選択だけはしないで欲しい。



A.solution <http://a-so.jp>

〒393-0023 長野県諏訪郡下諏訪町富ヶ丘6750 長岡 暢